

令和8年度 第3回 勝山市生活交通地域協議会 会議録

1. 開催日時 : 令和8年10月5日(月) 午後2時～
2. 開催場所 : 市役所3階第1会議室
3. 出席委員 : 下記のとおり※敬称略
4. 欠席委員 : 3名(下記備考のとおり)
5. 傍聴人数 : なし

区分	所属団体及び役職等	氏 名	備考
学 識 経 験 者	福井大学 講師	浅野 周平	
関係機関	福井運輸支局 首席運輸企画専門官	平井 早苗	
	福井県地域戦略部 交通まちづくり課長	中村 智哉	代理：参事 中田 宏幸
	奥越土木事務所 勝山道路課長	多野 幹剛	
	勝山警察署 交通課長	松井 一平	欠席
	勝山市区長連合会 会長	田上 滋良	
	勝山市高齢者連合会 事務局	尾方 則夫	欠席
	勝山市民生委員児童委員協議会 会長	石畝 史	
	えちぜん鉄道株式会社 取締役 営業開発部長	佐々木 大二郎	
	京福バス株式会社 経営管理部担当 取締役	松田 康弘	
	勝山交通株式会社 代表取締役社長	山内 誠司	
	大福交通有限会社 代表取締役	中村 雅彦	代理：専務 中村 勝俊
	福井県交通運輸産業労働組合協議会	大野 慎輔	
	勝山市宿泊施設関係代表者	山内 絢人	欠席
市職員	政策幹	畑中 健徳	
事務局	商工文化課 課長	中村 博紀	
	未来創造課 課長	藤澤 武久	
	未来創造課 脱炭素・地域交通係長	廣田 篤史	
	未来創造課 主査	織田 隆大	

令和8年度 第3回 勝山市生活交通地域協議会

1. 議長選出・挨拶

福井大学 浅野講師が議長に選出された。

2. 議題

(1) 市内全域でのフルデマンドバスについて 【議題1】

- ・令和9年4月より中学校の統廃合に合わせて、朝夕はスクールバス（市民混乗可能であり、学校だけでなく病院や勝山駅等にも停車し通勤等の定時便としても利用できる）を運行し、日中は市内全域でフルデマンドバスを運行することで、市民の細かな移動ニーズに応えられるような交通体系とする。
- ・フルデマンドバスの運行台数は、バスの利用実態から利用の多い平日は5台、土曜日は3台、日曜祝日は2台での運行を計画している。
- ・予約方法は電話又はWEB（アプリ）での予約とし、AI 配車システムを導入予定。運賃は未定だが、市民には割引等を実施し観光客より低い負担となるよう検討中。

①新規フルデマンド実施地区における新規バス停の増設について

- ・勝山地区や猪野瀬地区等のまだフルデマンドバスが運行していない地区について、既存バス停を中心とした半径150m圏内ではカバーできない地域を対象として、約100箇所の新規バス停を設置する予定。
- ・各地区区長からの意見は既に反映済みであり、今後は事業者等との最終調整を行う。
- ・新規バス停の設置場所は、道路交通法上の駐車が禁止となる交差点や曲がり角から5m以内等は遵守した位置に設置する。

●会員

- ・必要なタクシー運転手は確保できているのか。
- ・タクシー車両を使用するものと思っていたが、配布資料ではより大型の車両が示されている。乗り合い率はどうなのか。大型車両が必要なのか。
- ・フルデマンド後の実績については、どのような指標により検証を行うのか。

●事務局

- ・運転手については確保できている。
- ・勝山市内で既にフルデマンド運行を実施しているエリアでは、乗り合い率は1.8人程度となっている。また、1回の乗車で10人程度乗車される場合があるため、ジャンボタクシー等の車両で運行する必要がある。

- ・指標については、どの業者の配車システムを導入するかによるが、利用者数や乗り合い率、待ち時間などを想定している。

●会員

- ・AI 配車システムの管理は、事業者、市役所、またはシステム管理会社のいずれが行うのか。
- ・実証実験は2月まで実施し、3月は実施しないという認識でよいか。

●事務局

- ・管理はシステム管理会社が行う。システムについては市役所側でも操作可能である。
- ・実証実験は3月まで実施し、4月から市内全域で本格運行を開始する予定である。

●会員

- ・利用者から自宅までの送迎を希望された場合、タクシー運賃を徴収することで対応可能となるのか。

●事務局

- ・運行はあくまでバス停までとしており、自宅までの送迎は想定していない。

●会員

- ・各地区の意見は反映しているとのことだが、運行事業者には確認を取っているのか。

●事務局

- ・今回初めてお示しした。当然車両が通れないような細い道に設置する事はしないし、今後の事業者等との調整で十数メートル程度ずれることはある。あくまで、図のこの辺りに設置させて貰ってよいかをお諮りしている。

●会員

- ・降雪等があっても同じバス停を使うということでよいのか。

●事務局

- ・基本的には同じバス停を使用し、災害に近いような大雪の際には特定のバス停を使用停止として対応する事を想定している。

●会員

- ・市民と観光客とで金額が異なるとのことだが、どのように確認するのか。

●事務局

- ・導入予定のシステム仕様に、予約する際の利用者の属性によって異なる金額を表示できることが盛り込まれており、市内の方であれば市民料金が、市外の方であれば観光客料金がドライバーアプリに表示されるようになっている。

●浅野会長

- ・議決について、賛成の方は拍手を → 拍手多数、議決

②既存バス停の設置位置変更について

- ・区長より設置位置を変更してほしいとのこと意見があった既存のバス停（3箇所）について説明。
 - ・黒原バス停について三叉路近くに移設してほしいとの要望があった。
 - ・浄土寺第2バス停について水芭蕉への道路入口あたりに移設させてほしいとの要望があった。
 - ・薬師神谷第2バス停について川沿いの道から山沿いの道へ移設してほしいとの要望があった。
- ・黒原及び浄土寺のバス停はスクールバスでも使用するバス停であるが、コース変更等の影響がある移動ではないため問題はない。

●会員

- ・いつ移設を実施するのか。

●事務局

- ・令和9年4月のフルデマンド化に合わせて移設する。

●浅野会長

- ・事業者の方が問題ないのであれば、市民の方からの要望とのことですし実施して良いのではないかと思います。

●大福交通、勝山交通

- ・特に問題はない

●浅野会長

- ・議決について、賛成の方は拍手を → 拍手多数、議決

③既存バス停の名称変更について

- ・施設の統廃合等の環境変化により旧来からの名称では現状に即していないバス停について、バス停名変更を行いたい。
- ・変更時期は、スクールバスや市内全域のフルデマンド運行に合わせて、令和9年4月から適用する。
- ・各公民館等はまちづくり会館、廃校となる中学校は旧〇〇中学校前等、実情に合わせたバス停名へと変更。

●会員

- ・「旧〇〇中学校」については、将来、施設の経緯を知らない人が増えることが想定されるため、将来的には「〇〇中学校跡」へ名称変更した方がよい。

●事務局

- ・現在中学校跡地は避難所等として今後の利用について検討している。今後どのような活用方法となるか決まって、何年かしたら再度名称変更する事も考えている。

●会員

- ・「NTT 勝山前」バス停を「小林眼科前」として変更とあるが、このバス停は京福バスの勝山大野線にもあるバス停だが、市と京福で別々のバス停なのか。

●事務局

- ・同じバス停を使用している。

●京福バス

- ・なるべく合わせる必要があると思っている。変更を検討する。

●会員

- ・「小林眼科前」のような民間施設名をバス停名称として使用しているが、事前に施設管理者等の許可を得ているのか。

●事務局

- ・「小林眼科」への許可はまだ得ていない。許可取りを進める。

●会員

- ・平泉寺神社前や越前大仏前等のバス停の名称は観光客向けの者であると思う。メインの利用者は勝山市民であること考えると地域住民にわかりやすい名称に変更する必要があると思う。

●事務局

- ・平泉寺神社は市民の方にも認識が広がっているので難しいかもしれないが、越前大仏に関しては市民交流センターという公共施設があるので変更は可能。

●浅野会長

- ・この場では大まかな名称変更方針についての議決を取り、小林眼科や越前大仏等の意見があったバス停については調整等を実施して次回協議会で再度議題に挙げてほしい。
- ・議決について、賛成の方は拍手を → 拍手多数、議決

(2) 勝山市地域公共交通計画の改定について 【議題2】

- ・今年度で期限となる勝山市地域公共交通計画について、計画の改定を行う必要があり、株式会社ニュージェックと契約し、計画改訂事業を委託した。
- ・委託している株式会社ニュージェックより地域公共交通計画改訂に向けたスケジュール及びアンケート調査について説明。
- ・今後計画改定のために利用実態調査として、10月下旬に13歳以上の勝山市民全員を対象にアンケートを全戸配布し、QRコードを利用しWEBで回答してもらう。また、通学でよく利用する高校生対象アンケートや、バス乗降調査も実施する。

●会員

- ・アンケート調査方法について、高齢者にQRコードのみの回答方式は負担が大きい。公共交通は高齢者にこそ重要度が高い交通手段であるので、高齢者の回答が集まりにくいと意味がない。紙回答の併用も検討するべきではないか。

●事務局

- ・紙回答の併用を含めて検討する。

●会員

- ・「財政負担」に関する設問について、選択肢を1つに限定しなくてもいいのではないか。

●事務局

- ・複数回答ができるように設問内容を変更する。

●会員

- ・勝山市としてデマンド交通を目指してるのならば、将来のデマンド交通利用意向や相乗りへの理解なども聞くべきではないか。

●事務局

- ・将来のデマンド交通利用意向や相乗りへの理解などを問う設問を追加する。

●会員

- ・設問数が多く回答負担が大きい。特に世帯員全員分を複数回 QR コードで回答して貰うことを想定しているなら、設問数を減らすべきではないか。

●事務局

- ・設問について見直しを行い、設問数を減らす。

●会員

- ・勝山市内在住で勝山高校に通う学生について、市民アンケートと高校生アンケートの両方に回答することとなり、重複回答となる可能性があるのではないか。

●事務局

- ・現計画の評価指標となるため、市民アンケートと高校生アンケートの両方を実施したい。

●会員

- ・「通学時の決済方法」において、「交通系 IC カードの定期券（モバイル版を含む）」と「交通系 IC カードの定期券」の違いは何かあるのか。

●事務局

- ・重複しているため、回答内容を見直す。

●会員

- ・バスの乗降調査について、予定している日程では観光客が多くなることが予想される。観光シーズンや恐竜博物館利用者の影響を避けるため、11 月最後の土日に調査日の見直しを行った方がよい。

●事務局

- ・休日の調査日を 11 月 28 日または 29 日に変更する。

●浅野会長

- ・アンケート調査について多くの意見をいただいた。送付方法や回答方法についても一度検討が必要であるため、事務局で修正案を作成し、委員へメール等で確認・意見聴取を行ったうえで、最終的には事務局と会長とで調整し決定することとする。

4. その他・意見交換等

（1）観光客向けの二次交通確保に向けた公共ライドシェアの導入について

- ・ホテル事業者有志の間で、実施主体の体制について具体的な協議を続けていること、当初予定していた年内（12 月）の運行開始は準備が間に合わないため延期することと、2027 年春（雪解け後）を目標に事業化を進める方針が報告された。

その他

- ・その他に意見・報告などは無し。
- ・浅野会長の挨拶の後、勝山市生活交通地域協議会終了